国立大学法人熊本大学　令和４年度完了報告書

令和４年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

１．調査研究概要

熊本大学教育学部附属中学校において、過去の研究の財産である、総合的な学習の時間における委員会活動の探究活動化や、論理的思考モデルによる論理的思考力、表現力の育成、または、教科等横断的な思考力の育成を発展させて、生徒の資質・能力の育成につなげるとともに、生徒が主体となって、学校を運営していく学校を目指す。

（実践地域における年間実施スケジュール）

月	取組内容
４月	カリキュラム・マネジメント検討会議①
５月	
６月	生徒アンケート調査
７月	
８月	
９月	附属中学校研究発表会
10 月	カリキュラム・マネジメント検討会議②
11 月	
12 月	中間報告

１月	生徒アンケート調査
２月	カリキュラム・マネジメント検討会議③
３月	

２．調査研究の内容

（１）　研究テーマ

☑　a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

☑　b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

☐　c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（２）　調査研究の内容

ア　本校で目指す資質・能力の重点化【テーマａと関連】

生徒の課題から、育成すべき資質・能力を重点化し、次の３つに整理した。

・論理的に説明する力
・合意形成する力
・他者に貢献する力

３つの資質・能力の育成を目指し、下記の対話型論証モデルや見方・考え方をより働かせる授業を学校全体で行なった。

イ　三角ロジック・対話型論証モデルを活用した授業実践【テーマａと関連】

論理的思考力とそれを表現する力の育成のために、これまで本校の研究の中で行われてきた、三角ロジックを活用し、その実践を以下のように１年生～３年生の系統的かつ段階的に行った。また、その際に国語科を中心とした教科等横断的視点を持って実践を行なった。

ウ　見方・考え方を働かせた深い学びの実現【テーマａとｂに関連】

令和元年から３年度までの本校の研究である、教科の本質に迫る授業を通して「問題発見力」「探究力」の資質・能力育成に取り組んできた。本年度もこれを踏襲しながら、次年度は、単元配列表をもとに、「学校行事」「各教科の内容」「育成したい資質・能力」を関連づけながら、それぞれの教科等の見方・考え方を明確にし、将来的に実社会においても持続的に見方・考え方を働かせることができる生徒の育成を試みた。さらに、各教科の単元内においても、カリマネを図り、生徒にとってよりよい学びを目指した。

エ　各教科等で育成した、資質・能力を発揮・活用する場としての探究活動の充実【テーマａとｂに関連】

本校では、総合的な学習の時間のうち20時間を、３学年縦割り17コースの探究の時間として使用している。この20時間を各教科等で育成した、見方・考え方、ある

いは資質・能力を発揮・活用する場として捉え、これまで以上に活動を充実させた。各コースにおける探究テーマを設定し、そのテーマに迫るための活動や、学校生活における様々な課題を解決するための方策を考え、全校生徒・教職員・地域社会にも提案していくような実践を行った。また、教科の学びともリンクさせていく。

オ　検証と評価　～キャリアパスポートの活用を通して～【テーマａと関連】

研究の検証と評価は、「キャリアパスポート」を活用した。記録の方法としては、ICT を活用し、データで記録させた。それにより、自分の成長を実感し、自分の生き方とつなげ、前期終了時、または学年末に自分の成長を発表させようと試みた。

（３）　調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

・育成すべき資質・能力を重点化することで、学校全体で何を目指しながら実践を行っていくのかが明確になった。その一方で、それぞれの資質・能力の関係性が並列の関係性なのか、積み上げていくものなのかが曖昧であった。生きる力の育成を目指して、特別活動や総合的な学習の時間で担うべき資質・能力は何なのか、また教科で担うべき資質・能力は何なのか明確にしていく必要がある。

・三角ロジック・対話型論証モデルを活用することで、職員全体で、どのような生徒の姿を目指すのか明確になったとともに、共通の手段で実践を行うことができた。しかし、その３つのステップを全ての教科で全て活用していくのか，それとも総合的な学習の時間や、特別活動での活用すべきことなのかが明確でなかった。最終的に合意形成を目指すステップ３では、実践を伴う特別活動での活用が向いており、批判的思考を働かせ、他者と対話をしていくステップ２が、教科の中で目指していく姿であると考える。次年度は再度職員で共通理解を行い、実践を積み重ねていく。

・委員会活動の探究化において、各委員会の探究テーマから、個々人の探究テーマへとつなげながら実践を行ってきた。キャリアパスポートを活用した振り返りの中で、教科で培った力を活用しようとする生徒の姿を見とることができた。しかし、常時活動と並行しながらの探究活動の中で、個の探究に時間を費やせず、自己の生き方につなげるために十分な時間の確保ができなかったという課題が見られた。今後、この課活動のあり方から協議し、見直していく必要性を感じている。

（４）実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容		
	校内研修・授業実践・評価	生徒主体の学校運営の計画	手引書の計画
５月	研究テーマ・研究の方向性についての共有 三角ロジックの活用を意識した授業実践	・生徒会執行部によるスローガンの発表 ・前期のコース選択	

		・各コースにおける探究テーマの設定と解決までの見通し	
６月	研究授業①	生徒による授業研究会①（学習リーダー会）	「手引き書」の草案の作成
７月	前期課活動の振り返りと後期の方向性	未来創造フォーラム（各コースにおける成果発表会）	
８月			「手引き書」編集会議
９月		前期の振り返り 生徒が企画・運営する避難訓練	
10 月	研究発表会　教科の本質に迫る授業と熊大附中型カリキュラム・マネジメントの実践	生徒による授業研究会②（学習リーダー会） ・後期のコース選択	
11 月		・各コースにおける探究テーマの設定と解決までの見通し	
12 月	育成したい資質・能力に関する評価アンケート		
１月	評価アンケートの検証	生徒が運営する討論会（社会探究課）	「手引き書」の修正
２月	研究授業②	生徒による授業研究会③（学習リーダー会） 各課戦略会議（中間報告会） 後期の振り返り	「手引き書」の製本・印刷
３月	取り組みの反省及び令和５年度の計画		「手引き書」の完成

３．実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（〇：成果　●：課題）

〇研究発表会で報告された、教科の本質に迫る授業実践は、主体的・対話的で深い学びにつながる有意義な実践であった。また、代表授業後に行われた、学習リーダー会による「響きあい学習会」は、生徒と共に質の高い授業を目指し、特に生徒側からアプローチしていくという視点が興味深いものであった。

●しかし、学校運営に生徒がどうやって参画していくのかという点においては、研究発表会の中でも、総論の中でも見えてこなかった。また、「響きあい学習会」において見えてきた生徒の姿が、重点的に育成する資質・能力とどのような関連があるのか、また、どのような教科の力が活用されたのかについては、明確でなかったと思われる。カリマネ研究において、教育課程における各活動が、どんな資質・能力の活用や育成につなげようと意図

しているのか、詳細な資質・能力ベースの全体像を描く必要があるだろう。

●研究発表会において、各教科で培った、総合的な学習の時間や、特別活動とどのようにつながっていくのかは、見えにくかった。また、各教科で育む資質・能力をどのように見取るのか、さらには何を持って資質・能力が育まれたとするのかという評価面と、授業実践までにどのような積み重ねがあり、当日の授業を目指したのか、子どもの姿を根拠にした説明が欲しかった所である。今後も附属中学校との連携を密に行い、目指す資質・能力育成のためにサポートしていく。

４．参考資料

【必須】

①実践地域の取組の概要が分かるもの

②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料

※　２年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、
カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

【任意】

・各種アンケート結果

・その他　参考となる資料